

鎌倉市ごみ処理基本計画中間見直し（素案）	意見等の概要	考え方・対応
3 その他のごみ減量、資源化の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・TOKYU ではレジ袋で2ポイントのエコポイントを付けていますが、他の店舗、商店にもエコポイントの実施を義務づける条例を作ればいいと思います。また、布団、紙おむつ、畳、竹・笹以外でも資源化することも検討すべきです。 ・市がしっかりした政策を打ち立て、あらゆる機会を利用して、市民にごみ処理問題の現状のPRと危機状態の切迫感を喚起し、市民の同意を得ることを第一義とします。 ・3RのReduce（減少）は結果・目的であり、Reuse及びRecycleは、減少のための手段と位置付けるのが自然だと思います。37ページの推進体制の中で循環型社会形成のための3Rの取り組みを「推進していくものとします」は他人事みたいで、「推進します」に変更すべきだと思います。 ・学校等における3R教育、家庭地域への啓発が必要となってくると思います。 ・ごみ処理にたいしての意見を受け付けていると聞き、うれしく思いました。ごみの資源化を市の責任で、市民の協力と教育をしっかりとやって欲しいと思います。町の問題については住民の参加、協力をうながしましょう。賛成できる方法が生まれたら、解り易く忍耐強く指導してください。 ・「3R」は「発生抑制」「再使用」「再生利用」ですが、基本計画1で「ごみを持ち込まない」「ごみを作らない」「ごみを出さない」と変わっていますが、世界で取り組まれているエコ運動なのですから、変わってしまうのはおかしいと思います。 ・見直し計画にある、布団、畳、紙おむつの処理方法は早く実行してください。 ・次世代への思いという点では、父兄の集まり、鎌私幼や市P連などの集まりで啓発活動をするのも意味があるのではないのでしょうか。飲食店で、キエーロを設置して、生ごみを出さない努力をしている事業者をゴミ削減優良店などとして、広報等、他店と差別化することはできないのでしょうか。市の協賛、後援している事業に対してゴミ減少の取り組みを指導すべきです。 ・各家庭・事業所に本政策を周知徹底するためには継続的で粘り強い啓発活動と指導が不可欠です。 ・ごみの発生抑制のため、市内のスーパーなどでは「容器包装のあるものは売らない」など、行政が企業に介入しながら、ごみ抑制をしていく必要性もあると感じました。 ・自販機があるため難しいかもしれませんが、ペットボトルやカン飲料のデポジット制という意見はなぜ出てこないのでしょうか。 ・マイバックを持って買い物に行っても商品にプラごみが付いてきます。詰め替え用を購入してもその袋はごみになります。ゴミ問題はここからではないかと思えます。 ・紙ごみはいらぬDM類をポスティングされているケースも多いので、そういったことへの対策を市で検討してもらえると紙ごみは減るように思います。 ・3Rという言葉は他市でも使っていますがわかりにくいです。英語の意味を知らないと誤解も生まれ、本来の目的や意味をあいまいにするだけです。 	<p>これまで大量生産、大量消費の社会経済活動を続けたため、地球温暖化、自然環境の破壊及び資源物の不足といった問題に直面したため、国では平成12年に「循環型社会形成促進法」を制定し、3Rを推進することで循環型社会の形成を目指しました。</p> <p>本市でも、3Rを推進したことにより人口10万人以上の市町村の中でリサイクル率が5年連続全国第1位となりました。今後は、市民、事業者及び滞在者と協働して、更なるリサイクル率の向上を目指すとともに、リデュース（発生抑制）及びリユース（再使用）に重点を置き、ごみの減量、資源化に努めていきます。</p> <p>特に、市民への啓発については、ごみをめぐる課題の周知や低年齢層への環境教育を強化するとともに、ご提案の方策も参考にしながら取り組んでまいります。</p> <p>37ページのご指摘の記載は「推進します」に修正します。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・市民としては、ゴミとなるような包装されたモノの購入を控える思想、事業者はゴミとなる包装をしない努力、滞在者からは可能であれば、観光税の様な形でゴミ処理費用の負担を求める事も一考かと思えます。行政においては、継続的なゴミ削減の教育啓発活動と情報の透明公開化をお願いしたいと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進んでいる鎌倉市においてごみの分別を細分化することは問題があると思えます。高齢者にもわかりやすい分別方法を徹底すべきだと思えます。特に、プラゴミが問題だと思えます。ごみの量からいってもこれが一番多いので、これを減らす方を全市的に考えることが大切だと思えます。 	<p>これまで大量生産、大量消費の社会経済活動を続けたため、地球温暖化、自然環境の破壊及び資源物の不足といった問題に直面したため、国では平成12年に「循環型社会形成促進法」を制定し、3Rを推進することで循環型社会の形成を目指しました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・まずは個人がごみを減らすことからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭で出来る限りごみを減らすこと。それが不可能な場合は各町会ごとに極力消化して市の負担を軽くすることだと思えます。 	<p>本市でも、3Rを推進したことにより人口10万人以上の市町村の中でリサイクル率が5年連続全国第1位となりました。今後は、市民、事業者及び滞在者と協働して、更なるリサイクル率の向上を目指すとともに、リデュース（発生抑制）及びリユース（再使用）に重点を置き、ごみの減量、資源化に努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・大事なことは市民がなるべくごみを出さない生活をする事です。これにつきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・布団や紙おむつの資源化は大賛成です。他に、プラスチック類は購入店への返却や卵のパックや牛乳パックも購入店への返却も可能だと思えます。スマートなごみ減量の知恵を募集したり、小中高生に標語やポスター、作文の募集もするとよいと思えます。リデュースとして過剰包装紙の他、マイバック、マイ箸の奨励、リユースではフリーマーケットが町内会でも企画させるので、世話役さんに情報をもらうのも一案です。 	<p>特に、市民への啓発については、ごみをめぐる課題の周知や低年齢層への環境教育を強化するとともに、ご提案の方策も参考にしながら取り組んでまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・プラゴミや新たに分別が始まる使用済みオムツは行政センターで常時受入れてくれるようにしてほしいです。行政センターがこの役割を果たせば市民が定期的に支所に来ることになり、効果的な情報発信が期待できます ・原発事故で電力事情が逼迫している時であり多くの電力に頼った新しいゴミ処理は賛成できません（紙おむつの乾燥と粉碎など）。 ・紙おむつの処理について資源化設備を新たに設置する場所の選定に困難が予想されます。 ・福祉施設を対象にした紙おむつの資源化は、実現できるかどうか疑問です。医療ゴミの中で容器包装プラスチックについても安全性を重視して燃やしていることを考えると、資源化の安全性についても不安があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは個人がごみを減らすことからです。 ・各家庭で出来る限りごみを減らすこと。それが不可能な場合は各町会ごとに極力消化して市の負担を軽くすることだと思えます。 ・大事なことは市民がなるべくごみを出さない生活をする事です。これにつきます。 ・布団や紙おむつの資源化は大賛成です。他に、プラスチック類は購入店への返却や卵のパックや牛乳パックも購入店への返却も可能だと思えます。スマートなごみ減量の知恵を募集したり、小中高生に標語やポスター、作文の募集もするとよいと思えます。リデュースとして過剰包装紙の他、マイバック、マイ箸の奨励、リユースではフリーマーケットが町内会でも企画させるので、世話役さんに情報をもらうのも一案です。 	<p>37ページのご指摘の記載は「推進します」に修正します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・焼却量削減のため、本計画期間では、声かけふれあい収集家庭と高齢者福祉施設から排出される紙おむつの資源化を行います。市内3か所に設置する設備では破碎、乾燥し、燃料材を生成します。 		